

新座市水道事業ビジョン及び新座市上水道第8次施設整備事業計画（素案）

への御意見等と御意見等に対する市の考え方

◆意見募集期間：令和7年12月24日（水曜日）～令和8年1月23日（金曜日）

◆提出者数・意見数：1人・2件

◆提出された意見と意見に対する市の考え方

◎：意見のとおり素案を修正したもの

○：意見どおりではないが、素案の一部修正したもの

△：素案の修正は行わないが、今後の参考・検討課題とするもの

—：素案を修正しないもの／意見を採用しないもの

	指摘箇所	提出された意見	意見に対する市の考え方	市の方針
1	p.1-12	<p>図1-5 水道施設と配水区域 ◆計画給水人口 165,600人 ◆計画1日最大給水量 57,800m<sup>3</sup>/日 ◆配水能力（最大施設能力） 66,400m<sup>3</sup>/日（自己水源 22,100m<sup>3</sup>/日+県水44,300m<sup>3</sup>/日） ◆水源水量比（令和6年度実績） 自己水源（取水）量24.21%、県水受水量75.79%</p> <p>とあるように、水源の構成について我が新座市では自己水源は日量22,100m<sup>3</sup>に対して、県営水道（県水）44,300m<sup>3</sup>となっている。つまり、水源の約8割は県水受水である。コスト面を考えた場合に、この自己水源と県水のバランス比率の見直すことを提案します。</p> <p>1日最大給水量 57,800m<sup>3</sup>/日であり、配水能力は最大で 66,400m<sup>3</sup>/日である。ここから算出するに現状から県水受水量を現状の76%（令和6年度実績）から85%～90%辺りまで順序増量し、コスト削減することを提案します。埼玉県営水道事業（大久保浄水場）の水道用水供給単価は2024年7月に値上げが発表され、改定後単価（2026年4月～）：1m<sup>3</sup>あたり約76円です。自己水源の活用はメンテナンス面での各事業体の費用負担が大きく、県営水道の水道用水供給単価を買い取る方がコスト面で優位となります。</p> <p>出典 新座市上水道第8次施設整備事業計画書 新座市水道事業ビジョン（素案） 新座市水道事業ビジョン・新座市上水道第8次施設整備事業計画（素案）への意見を募集します - 新座市パブリック・コメント制度 - 新座市ホームページ</p>	<p>新座市水道施設再配置基本計画における浄水場の統廃合に伴い、将来的には片山浄水場と野火止浄水場の多くの井戸を廃止し、県水受水の割合を増やす方針としておりますので、水源の構成については、水道水の供給にかかるコストを抑制しつつ、安全で安心な水道水の供給を持続できるように、継続して検討してまいります。</p>	△
2	p.2-11 p.2-13	<p>新座市のみならず全国の水道事業体での課題として、人口減少による使用水量（給水人口）の減少、自然災害の頻発や施設および管路の老朽化、技術の継承問題など様々です。</p> <p>なかでも市職員のみでの対応では人員的な限界があり、全てを職員のみで対応するのは非現実的な試みであるのが現状である。3 多様な外部委託制度の活用に『施設や管路の更新事業を継続的に実施するには、市の職員のみでは対応が困難である。そのため、限られた人員で更新事業と日常の運転・維持管理業務の双方に対処するため、効率化やコスト削減の観点から外部委託の積極活用を図る方針とする。』とあるように、新座市上水道第8次施設整備事業計画での個別委託及び包括業務委託が今後の必要性を帯びてくる。</p> <p>現状、水道料金徴収等の業務のみ包括業務委託を導入しているが、さらに広範囲な業務を民間事業者へ委託することを導入・推進する必要性があるのではないかと特に浄水場の運転管理、維持管理の業務も民間委託（包括業務委託）することを推奨します。</p> <p>これにより官民連携での安全で安心で持続可能な水道事業の運用が以前よりまして可能となるように思われる。</p>	<p>浄水場施設における運転管理及び維持管理は既に外部委託をしておりますが、民間委託等の官民連携の実施については、様々なご意見があることを改めて認識したうえで、委託の実施に係るコストや職員が対応可能な業務量等を総合的に勘案しながら、官民連携の実施範囲を継続的に検討してまいります。</p>	△